

報告者：徳堂（就労支援室）

令和5年度 第2回台東区障害者地域自立支援協議会（就労部会）報告

1 開催日

毎月第3水曜日 17:00~18:30

5/17、6/14、7/19、8/9（リモート開催）

2 検討した内容

（1）令和5年度検討テーマ「中高年の働き方」について

生活・健康・家族・仕事の4つの課題について、事例を出し合い、その対応方法について話し合う。

今後は、事例から得られた課題を整理し、解決策などをまとめ、必要なサービス、社会資源などのしくみを検討していく。

（2）講演会について

「中高年の働き方」について講演会を行う予定。

（3）企業見学について

9月13日（水）、株式会社No.1の見学を実施。

企業名：株式会社No.1 東京物流センター

事業内容：OA関連商品販売、情報セキュリティ販売、経営支援サービス、
機器の販売、オフィス通販

（4）勉強会

今年度は、各事業所の困難事例の検討を行う。

◎5月 困難事例（就労支援室）

50代女性 障害名：うつ病（精神障害） 生活保護受給中

・専門学校卒業後、留学を経て旅行会社に就職したが、親の介護で離職。

その後、一般就労していたが、うつ病を発症後は、障害者雇用で働くも人間関係のトラブルにより離職を繰り返している。

《課題》

- ・感情のコントロールが難しい時への対応方法。
- ・「働きたい」という気持ちを尊重しつつも、ご本人の障害特性を考慮した働き方（生活）をどのようにすすめ、サポートしていくのか。

《部会員からの意見》

- ・働くためにどうするべきか、自分で考えさせることが重要。
- ・社会人として守る必要があることを書面で提示するなど、本人に意識付けを行う。
- ・その都度、振り返り、何故できなかったのか等を一緒に考えていく。

◎6月 困難事例 (つなぐ台東)

40代男性 知的障害・身体障害

- ・生後まもなく水頭症のため手術。小学4年生から特別支援学級へ編入。高校卒業後、就労継続支援B型を利用し、現在に至る。
 - ・母と二人暮らし、兄妹は協力的。
 - ・結婚したい＝収入が必要＝就労したいという願望がある。
- しかし、生活・就労面の課題が多く20年以上経過しており、就労は難しい状況。

《課題》

・課題の掲示と振り返り方法

不適切な場面を切り出して説明を行っても、その点だけを問題と捉えやすく、他の場面に応用して考えることが難しい。就労に向けた課題と、評価基準を具体的かつ総括的に示さないことは支援者側に問題がある。

・話し合いだけでなく、本人の現状理解の手助けをする方法

より実際の就労に近い形式でのトレーニングをすることで、本人の就労とそれに向けた課題を具体的に認識するための一助としてもらう。

《部会員からの意見》

- ・就労継続支援B型事業所より就労した方が、どのようなプロセスで就職できたのか、実際に見てもらう。また、現場を見て体験し、自分の作業能力の理解へつなげるのはどうか。
- ・障害者職業センターのアセスメントシートを参考にすることを検討。
- ・就労支援室の事業「就労トレーニング」等の活用を検討していくのはどうか。

◎7月 困難事例 (HOPE)

40代後半女性 ASD/ADHD (精神障害)

- ・父・母・本人(弟は結婚し独立)
- ・大学卒業後、大学職員として4年間勤務。その後大学院へ入学。
- ・卒業後は、派遣社員やパートの事務補助業務を行っていたが、同じミスを繰り返す事など、上司にミスを厳しく叱責され退職。
- ・その後は職を転々としながら、40歳になった頃、人間関係でうまくいかず心療内科を受診。手帳取得。主治医よりADHDの症状を改善させる薬の服薬をすすめられるが抵抗があり服薬していない。
- ・睡眠障害も併発しているため、睡眠導入剤は服薬している。
- ・もう一度、一般就労を目指したいとのことで利用開始。休まず通所することを目

標にしていたが、他人の表情や言葉を被害妄想的に受け取ってしまう特性があり、人間関係の構築が難しく、障害受容ができていない。

《課題》

- ・障害受容ができず、支援を受け入れられない利用者に対するアプローチ方法。

《部会からの意見》

- ・事業所内だけではなく、保健師等の関係機関と連携して支援していく中で、その方に必要な支援を検討していくのはどうか。

◎8月 困難事例（耕房 輝）

40代男性 統合失調症（精神障害）・知的障害 生活保護受給中

- ・区内にて一人暮らし。心臓が悪く、通院中。
- ・一般就労を希望している。
- ・本人の理想や自己評価と現実のギャップが大きい。なかなか現実を受け止められず、事実を伝えても歪んだ理解になってしまうことが多い。都合が悪くなったり自信がなくなると、支援者のせいにして就職を辞める発言をするが、就労することを諦められない。

《課題》

- ・就労したい気持ちを受け止め、課題や事実の整理・確認、アセスメントシート等を利用し、本人と共に整理等に取り組んでいるが、理想と現実のすり合わせや、本人にとっての課題を明確に示すことが不足している。他にどのようなことができるのか。

《部会からの意見》

- ・東京都教育庁のチャレンジ雇用を、目的を見出すという意味で活用してもよいのではないか。
- ・いろいろな面接会等にチャレンジしていくのはどうか。

3 今後のスケジュール

- ・企業情報発信のための企業を検討
- ・検討テーマの課題整理とまとめ
- ・講演会の内容及び日時を検討